

第18期(2014年度)PHD協会 国内研修生(インターン)募集!!



海外からの研修生とともに学び、

アジア・南太平洋の草の根の人々と共に生きるための活動に関わりませんか？

【募集人員】	2名(研修担当・啓発担当各1名)
【研修地】	原則として当協会事務所。交通費支給(上限有)。海外研修生の研修現場(主に兵庫県内各地)、外部での研修プログラムへの参加もあります。
【期間】	2014年5月より2015年3月までの間で、研修担当の国内研修生は週5日、啓発担当は週3日～5日。時間は9:00～18:00を原則とします。期間や時間などは面接時にご相談ください。
【募集締切】	4月20日(日)必着
【選考方法】	一次:書類選考(履歴書・志望動機文) 二次:面接(4月末～5月初旬予定)

■ 研修担当の国内研修生

海外研修生と有機農業・地域づくりなどを学びたい!という方

主に海外研修生の一年間の研修のアシスタントを担当していただきます。研修担当職員の下、研修事務、調整、海外研修生の生活面でのサポートなどから、研修振り返りなどのファシリテートまで関わっていただきます。ネパール(女性)、インドネシア(女性)、ミャンマー(男性)の研修生と密接に関わることができます。また、海外研修生と一緒に農業及び保健衛生等の研修に同行することもでき、学びの現場に立ち会えます。

研修期間や日数によっては、夏のスタディツアー(研修生選考)の航空券が支給されます。また希望者は海外研修生と一緒に東日本・西日本研修旅行への同行ができます。



2014年度の研修生

■ 啓発担当の国内研修生

NGO 運営業務に興味がある!海外研修生と一緒に学びたい!という方



広報物の作成やHPの更新、ボランティア対応などの啓発活動とNGO運営業務補佐を担当していただきます。また、フェアトレード部門(タイの草木染め手織り布、ネパールの羊毛製品など)の担当として、商品の開発・管理・販売(バザー等)、ボランティアグループ「ソディ」の運営・調整などの業務全般にも関わっていただきます。希望者は、海外からの研修生の研修に同行してもらうことも可能です。

研修期間や日数によっては、布の買い付けをする12月のタイツアー航空券代が支給されます。また希望者は海外研修生と一緒に東日本・西日本研修旅行への同行ができます。



海外研修生の研修に同行



研修生全員での釜ヶ崎研修



東日本研修旅行で商品の販売

国内研修生をやってみて ～第17期国内研修生より

■ 石川裕美さん

(地域活動の団体や一般企業での勤務を経て、国内研修生に)



海外研修生と過ごす1年間は新しい発見や学びの連続で、毎日が楽しく充実しています。彼らの目を通して日本の社会を見つめなおす中で、自分の生き方、国際協力とのかかわり方を考え直すきっかけになりました。

研修の指導者をはじめ、NGO/NPO関係者など色々な生き方をする人たち、アジアの村の研修生との出会いからたくさんのことを学ぶことができます。

■ 本田愛さん

(保育士・ネパールでのボランティア活動を経て、国内研修生に)



自分の村や国のことを自信を持って話す研修生と、普段の何気ない会話の中でも気付かされるものがたくさんあり、自分の生活、日本について考えさせられています。また、研修指導者やPHDに関わる方と出会い、様々な生き方や人生に触れ、これからの自分の生き方を考える上で素敵な出会いがたくさんありました。

国際協力だけでなく、日本のことや自分の生活、生き方について考えるきっかけを与えてくれます。

担当職員より

■ 研修担当 今里拓哉 (写真右)



研修に同行することにより、PHD協会が誇る素晴らしい研修指導者の方々とお会いし、その教えや生き方から多くの気づきを得ることができます。さらにアジアの農村からやってくる研修生たちから私たちが学ぶべきことも山ほどあり、充実した1年になるかと思えます。

共に当会の研修をより良いものにしましょう。お待ちしております！

共に当会の研修をより良いものにしましょう。お待ちしております！

■ 啓発担当 芳田弓生希 (写真左)



NGOの運營業務全般に携わっていただきますが、海外からの研修生の研修に同行し、共に学ぶ機会も多いです。また、当会を支えて下さっている多くの方々との素敵な出会いが待っています。

この1年での出会いとご縁が、きっと次の一步に繋がると思っています！アジアの村の人と日本の人とを繋ぐ活動を、一緒にしませんか？

PHD協会とは

PHD協会は、ネパールなどで1962年から医療活動に従事した岩村昇医師が自らの経験と反省をふまえ、「物」「金」中心の一時的援助を超えた草の根レベルの人材交流・育成を提唱し、1981年に設立した国際協力の団体です。アジア・南太平洋の村の青年を研修生として日本に招き、農業、裁縫、保健衛生といった内容の研修を行い、帰国後もフォローアップを行うことを通じて、

草の根の人々による村づくりと生活向上に協力しています。今までに、インドネシア、ネパール、ミャンマーなど11カ国から約280名の草の根の人々を受け入れてきました。日本人々もアジア・南太平洋の人々との交流を通して学ぶことはたくさんあります。そこから、毎日の生活を問い直し、草の根の人々と共に生きることのできる生活を、足元から実践するための活動を続けています。